日本歯科医史学会々誌・第4巻
第1号通巻12号・昭和51年7月

# 三島通良著　衛生唱歌と口腔衛生

谷　津　三　雄*

明治27～同28年の日清戦争の際，多くの軍歌が国民の間に流行した．これに刺激されて教育唱歌の運動が軍国主義とあいまって明治30年頃に盛んに普及した．すなわち，算術唱歌や地理唱歌などを算え歌式が段階式に作詞し歌いながら覚えさせようという全体主義主張の試みである．

これら主義のもとに作詞されたひとつに「衛生唱歌」がある．作詞および著作はわが国における学校衛生の創始者三島通良，作曲は鈴木米次郎で，出版は明治33年12月27日集英堂より発行，金7銭，21.5×15 cm，10ページの小冊子である．

この「衛生唱歌」について若干の解題を試みたい．

**三島通良の人物史**

井関九郎著，批判研究，博士人物，医科篇，発展社出版部，大正14年5月刊によると，学校衛生学の権威としては，医博三島通良を第一に推さざるを得ず，三島は明治22年東大医科の出身にして高田畊安，伊藤隼三，関場不二雄，舟岡英之助，下平用彩等諸博士と同期なるが，在学中早く父を失ひ，家に余財無かりしを以て，語学教師，翻訳，通弁等をなして学資を得，苦学自給して其業を卒ゆるや，更に大学院に入り，同25年研究を終り，同28年満期退学す．之より先，同24年文部省より学校衛生事項取調の嘱託を受け，翌25年帝国痘苗院を設立して痘苗及種痘術に就て研究せり．越えて29年文部省学校衛生主事兼東京高師教授，同33年文部大臣官房学校衛生課長となり，同36年独，英，仏に留学し主として伯林大学にて学び，在学中同36年万国学校衛生会議の創立に当り其の主唱者に撰挙せらる．又白国ブラッセル府に開会の第13次万国衛生及デモグラフキ会議に本邦政府委員として列席せり．帰朝後38同年東京高師教授を辞し，三島医院開業，其の中同44年脳神経衰弱症に罹り廃業爾来随意の研究に従事し此間医術開業試験委員，東大医科講師，東京商大講師，広島高師講師などを勤め，公職を有せず文部省学校衛生事項取調嘱託たり．

主論文「日本健体小児ノ発育論」外2篇（東大審査）にて明治35年4月博士号を得たり「ははのつとめ」「学校衛生学」「日本健体小児の発育論」其の他文部省出版に係るもの名著20余種あり．

三島は東京府の人，当年60歳也．（すなわち本書出版の大正14年は1925年であるので当年60歳とは1865年になるので慶応元年出生であろうか．）文学的趣味の人にして，詩に，文に，書に見るべきあり，静堂を号とす．また，謡曲を好み堪能なり，時に旅行を楽しむの風あり，而して嗜好は喫煙を第一とす．学校衛生学者としては当世医界此人に次ぐもの無しと記されている．なお三島通良は日本大学歯学部の前身である東洋歯科医学専門学校発足当時にその名をつらねている．

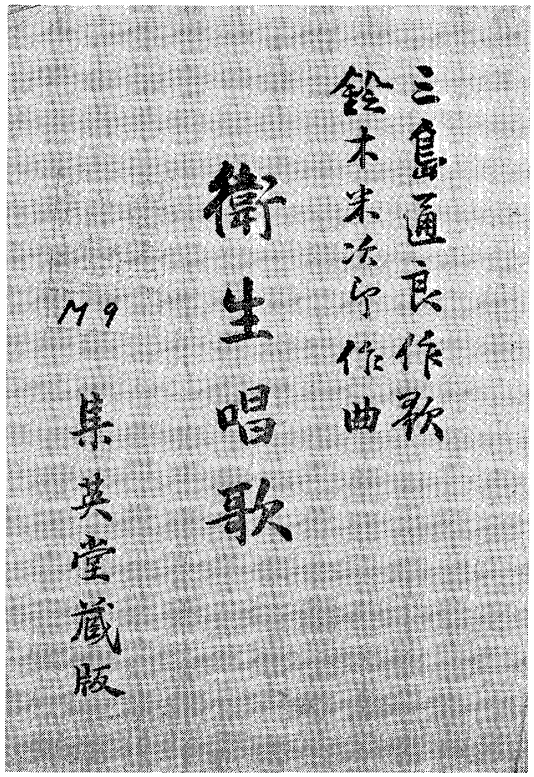
**三島通良作歌，鈴木米次郎作曲，衛生唱歌**

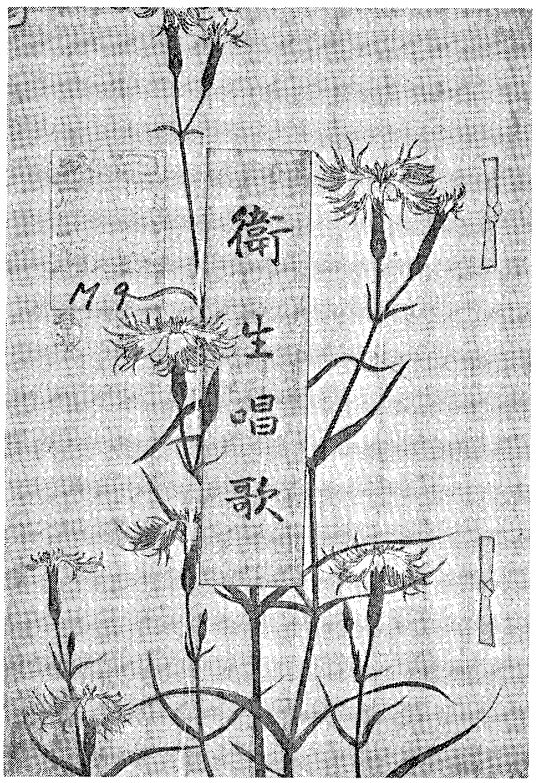
その緒言に「近年各種優美の唱歌流行し，ために児童等が，卑猥の俗謡を歌ふこと，殆んど其跡を絶つに至りしは，悦ぶべき現象なりと信ず．然るに右等唱歌の中には，道徳，歴史，地理等に関するものは夥多あれども，未だ一つ衛生に関するものを見ざるは，吾輩の常に遺憾とするところなりき．邇日，書肆集英堂来って余に衛生唱歌を作らんことを需む，因って試に此が一篇五段を作る．

然れども，元来衛生の事たる極めて不華美に属

---

Hygienic Songs and Oral Hygiene, by Tsuryo Mishima
Nihon University School of Dentistry at Matsudo
* Mitsuo YATSU




するを以て，名世の歌人を以てするも，道徳歌の如く高尚に，歴史歌の如く勇壮に，地理歌の如く優雅ならしむる能はざるべし，然るを況んや余の凡手；如何ぞ能く此が名歌を作ることを得んや．然しながら衛生歌は，固より一時の愉快を感ずるを以て，目的とするものにあらず．毎日怠らず之を歌ふときは，児童をして，自然衛生の道を実行するに到らしめ，併せて其徳性を涵養するに足らん．余は，其之あるを信じ，尚ほかくあらんことを祈るものなり．希くは，世人其歌の拙なるを責めずして，余の志のあるところを諒し，児童をして汎く之を歌はしめられんことを明治33年の冬於波隴堂，三島通良識より本書の出版の主旨を知る．

次のページに衛生唱歌の楽譜その裏面は数字で表記された楽譜が記されている．

**一段**

あやにかしこき　天皇（すめらぎ）は
教育勅語を　臣民に
くだし給ひて　のたまはく
皆克（よ）く忠に　克く孝に
ああこの忠義　孝行は
わが日本（ひのもと）の　精華なり
身体髪膚を　父母にうけ
毀傷せざるを　孝と云ひ
心身みながら　天皇（すめらぎ）に
棒げまつるを　忠と云ふ
その身体も　精神も
健康ならずば　強からじ
忠忠孝孝　忠孝と
のきにさへづる　小雀も
森になきたつ　小鳥（がらす）も
羽ぶし強きは　声高し

**二段**

人万物の　霊として
忠孝二道　ふまんには
幼きときより　心して
左の法則を　守るべし
よるは八時に　ねまに入り
朝は七時に　とこをいで
よくロすすぎ　眼を洗ひ
顔を拭ひて　髪をとけ
食は必ず　よくかみて
静に咽に　のみ下だせ

湯漬茶漬を　食すれば
消化を損ふ　ものと知れ
余りに熱き　湯茶のむな
氷の如きも　亦わろし
熱したる身に　水飲めば
風ひくことの　あるぞかし

**三段**

すべての食物　飲料は
腹八分より　すごすなよ
食後はしばらく　休息し
さて運動に　かかるべし
食するやがて　湯に入るな
湯に入るときは　石磯（しゃぼん）もて
よく身体の　垢をさり
且つよくこすり　拭ふべし
雨のあしたや　風の日も
車に乗るな　児童（こども）らよ
櫛風沐雨（しっぷうもくう）に　きたへてぞ
身は金鉄に　なりぬべし
いとまある日は　野辺にいで
清き空気を　十分に
吸うは滋養の　食物を
食ふに劣らぬ　ものぞかし

**四段**

衣服は軽きを　旨として
襟巻などを　すべからず
男児はもとより　女児にても
袖筒きるは　便利なり
袂短かく　帯せまく
裳裾（もすそ）は薄く　下駄低く
髻（もとどり）ゆるく　髷（まぐ）かろく
髪はしばしば　くしけづれ
袴はなるべく　低くはけ
紐も高くは　結ぶなよ
これぞ女子（をなご）の　注意なる
泥に塗（まみ）れし　草履にて
牀にあがるを　禁ずべし
腰はこしかけ　一杯に
かけてもたれて　身はなほく
頸（うなじ）頭（かしら）を　曲げるなよ

**五段**

たそがれ時の　うすあかり
光ともしき　燈火（ともしび）や
ゆらぐ車の　上にして
新聞見るな　本読むな
細かき文字　うすき紙
墨つきあしき　印刷は
いづれも視力を　害すべし
疱瘡はやらば　種痘せよ
はやらずとても　怠らず
六年目には　試みよ
病ある日は　心せよ
病なき身は　きたふべし
強壮偉大の　魁男子
健康艶美の　真婦人
互ひに力を　昼しなば
御国は万歳　万万歳

**考証と結び**

二段の「朝は七時にとこをいで，よく口すすぎ眼を洗ひ，顔を拭ひて髪をとけ，食は必ずよくかみて，静に咽にのみ下だせ，湯漬茶漬を食すれば消化を損ふものと知れ」の一節は口腔衛生を歌ったものである．

このようにして，これを児童に歌わせることによって衛生の効果を期待したのであろうが，どれほど歌われたかは不明であるばかりか，その後本書が増補重刊されていないことからあまり歌われなかったのではないだろうか．

本書の裏表紙には「正しき姿勢」として，机に向っている小学生が図示されているのは著者が学校衛生の創始者であることを考えれば当然のことであろう．

## 文　献


1) 三島通良：衛生唱歌，集英堂，明治33年（1900）12月．
2) 井関九郎：批判研究．博士人物医科篇，発展社出版部，大正14年（1925）5月．
3) 今田見信編：続歯学史料，医歯薬出版，昭和47年（1972）6月．
4) 日本科学史学会編：日本科学技術史大系．第24巻，医学1．第一法規出版，1965年10月．